

科目名	国語科教育法		
担当教員名	星野 祐子、遠藤 智子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

教員免許取得のための選択科目。「国語科教育法」の学習を受け、国語科教育に関する一層の理解を深め、授業実践能力の向上を図る。

科目の概要

国語科教育が抱える今日的課題や学習指導法の新しい動きについて学ぶ。その後、自己の創意工夫を活かした指導法の作成や模擬授業の実践を行い、実際に授業を担当する上で求められる能力を培う。

学修目標

1. 「国語科教育法」で学んだ基礎的知識・技能を基に、国語科教育の今日的課題や新しい学習指導法について理解を深める。
2. 学習指導案の作成や模擬授業を通して、授業実践能力の一層の向上を図る。

内容

1	国語科教育の今日的課題と新しい学習指導法
2	ディベートとパブリック・コミュニケーション・ゲーム
3	対話能力を高める授業の工夫
4	P I S A型読解力とクリティカル・リーディング
5	論理的な思考力・表現力を育てる授業実践
6	文学的文章における分析批評と読者論的読みの指導方法
7	指導案の作成（1）復習
8	指導案の作成（2）発問・評価について
9	模擬授業（主に「話すこと・聞くこと」）
10	模擬授業（主に「書くこと」）
11	模擬授業（主に「読むこと」説明的文章）
12	模擬授業（主に「読むこと」文学的文章）
13	模擬授業（主に「伝統的な言語文化に関する事項」）
14	模擬授業（主に「国語の特質に関する事項」）
15	まとめ

評価

毎回、授業時に提出するレポート類（3割）、演習発表（3割）、期末考査（4割）により評価を行い60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：毎回、プリントを配布する。

参考図書：『中学校学習指導要領解説（国語）』（文部科学省・東洋館出版社）。その他、授業の中で適宜紹介する。

科目名	教職入門		
担当教員名	高橋 京子、草野 一紀、遠藤 智子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

教育職員免許法に定められた教職科目である「教職の意義等に関する科目」である。

科目の概要

「教師の仕事とは何か」を様々な角度から学ぶ。

- ・教職の意義と教員の役割について
- ・教員の日常の教職生活について
- ・教員の職務内容について
- ・教員採用など進路選択のあり方

学修目標

教職の制度的側面についての基礎知識を習得するとともに、教職の意義と教員の役割について理解を深め、教職への意欲を高める。

内容

第1回：専門職としての教師・その法的位置づけ

第2回：基本的な教育法規の解説と考察

第3回：学習指導要領の法的意義

第4回：学校における教育課程編成の意義

第5回：教員生活の実際

第6回：研修制度の実際

第7回：教員の服務

第8回：学校・家庭・地域社会の連携

第9回：学校をめぐる、現代の諸問題

第10回：今日の教育課題の考察（子どもの学力）

第11回：今日の教育課題の考察（子どもの健康）

第12回：今日の教育課題の考察（子どもの安全）

第13回：今日の教育課題の考察（子どもの人権）

第14回：教員の養成と採用

第15回：まとめ

評価

毎回の講義で記入する学習票(20点)と、最終試験(80点)を総合して、単位を認定する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】「最新 教育キーワード 第13版」江川? 成ほか著 時事通信社

【参考図書】「学習指導要領」「学習指導要領解説」「学校小六法」等、随時紹介します。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動を客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題：10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は教職ガイダンスなどで事前に指示する。

科目名	教育方法		
担当教員名	狩野 浩二、安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「情報処理演習」において十分に学習しているので、操作技法については行わない予定である。

本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

内容

いかに取り扱う内容を示す（順不同）。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術（教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など）
- 2 授業が目指すものは何か（授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性）
- 3 授業の構想と計画（構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究）
- 4 指導案作成（実習課題）
- 5 教えることと支援すること（本気で教えること、学習支援と称して放置すること）
- 6 問いの創造と授業の展開（問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態）
- 7 教材づくり・教材発掘の視点（教材づくり・教材発掘の視点、教材研究）
- 8 授業と教授メディア（教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか）
- 9 コンピュータの利用（コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割）
- 10 学習障害（LD）の理解と指導（学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法）
- 11 特別支援教育と方法・技術（特別支援教育、Normalization, ADHD）
- 12 授業と教師（教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば）
- 13 教育評価の役割と方法
- 14 学力と教育評価の課題（予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力）
- 15 まとめ

評価

評価は、授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、課題の提出状況と達成度を40%、最終試験の達成度を50%とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う場合があるので注意すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編『新訂教育の方法・技術』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める中学校・高等学校及び養護教諭の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校・高等学校及び養護教諭の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史の変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史の変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項	
11	11. 総合的な学習の時間との連携	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践（1）学生の選んだ主題	
14	14. 模擬授業の実践（2）学生の選んだ主題	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道德教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校（高等学校）学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道德・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	国語科教育法		
担当教員名	遠藤 智子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

教員免許取得のための選択科目。本科目では、中学校国語科の授業を行う際の基礎的な知識・技能の習得を目指す。後期の「国語科教育法」は、本科目の発展科目として位置づけられ、連携して国語科教育の知識・実践能力の向上を図る。

科目の概要

まず、学習指導要領や指導理論について学ぶ。その後、中学校国語科の具体的な教材に即して、先行の優れた実践例を参考にしつつ、指導案の作成や模擬授業を行う。実践的な活動を通して、諸技法の基礎を身につける。

学修目標

1. 中学校国語科教育の目標や内容、各分野の指導理論の大概を理解する。
2. 過去の優れた実践や理論を参考にして、学習指導案を作成する力を身につける。
3. 模擬授業等を通して、授業実践の基礎的技法を習得する。

内容

1	学習指導要領の解説（1）国語科教育の内容と目標
2	学習指導要領の解説（2）改訂の経緯・特徴
3	学習指導案の書き方と模擬授業の方法について
4	「話すこと・聞くこと」の指導法（1）指導理論の流れと実践例
5	「話すこと・聞くこと」の指導法（2）指導案の作成
6	「話すこと・聞くこと」の指導法（3）模擬授業
7	「書くこと」の指導法（1）指導理論の流れと実践例
8	「書くこと」の指導法（2）指導案の作成
9	「読むこと」の指導法（1）指導理論の流れと実践例
10	「読むこと」の指導法（2）PISA型度読解力の定義と実践例
11	「読むこと」の指導法（3）説明的文章・指導案作成
12	「読むこと」の指導法（4）文学的文章・指導案作成
13	「読むこと」の指導法（5）模擬授業
14	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する指導法
15	まとめ

評価

毎回、授業時に提出するレポート類（4割）、演習発表（1割）、期末考査（5割）により評価を行い60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：毎回、プリントを配布する。

参考図書：『中学校学習指導要領解説 国語』（文部科学省・東洋館出版）。その他、適宜、授業中に紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：中学校英語二種免許状を取得するために必修の科目です。

科目の概要：中学校で英語を教える際の具体的な指導法に関して、4技能に分けて、理論的背景も学びます。

学修目標： この講座では、学習指導要領に基づき、中学校英語二種免許状の取得に必要な知識の獲得はもちろんのこと、教壇実習に必要な教授法について実践的な指導技術を学ぶことを目標とします。

内容

まず、テキストやモデル授業のビデオを使って1時間の授業の組み立て方を学んだあと、Warm-upに続いてListening、Speaking、Reading、Writingなど具体的な指導法を研究し実践します。学生は教師と生徒の役をそれぞれ持ちまわりで分担し、該当する箇所の指導案を作成します。

第 1 週 授業説明

第 2 週 中学校の英語授業

第 3 週 授業の構成

第 4 週 Listeningの指導（その1）

第 5 週 Listeningの指導（その2）

第 6 週 Listeningの指導（その3）

第 7 週 Speakingの指導（その1）

第 8 週 Speakingの指導（その2）

第 9 週 Speakingの指導（その3）

第 10週 Readingの指導（その1）

第 11週 Readingの指導（その2）

第 12週 Readingの指導（その3）

第 13週 Writingの指導（その1）

第 14週 Writingの指導（その2）

第 15週 まとめ

評価

課題50点、模擬授業50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

米山朝二『英語教育・・・実践から理論へ』松柏社

科目名	道徳教育		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校二種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

道徳教育に対する一般的認識は、歴史的な影響もあって学習指導要領に定められた本質や理念とは、大きなずれがある。道徳教育が目指す人間観や教育観について正しく理解して指導に当たることが出来るように、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・「道徳」の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1	学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2	社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3	現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4	道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5	学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6	学校の全教育活動における総合的展開
7	7	学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳の時間の指導
8	8	道徳の時間の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9	学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10	学校における道徳の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11	これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12	学習指導案の検討と模擬授業の準備
13	13	模擬授業の実践(1)学生の選んだ主題
14	14	模擬授業の実践(2)学生の選んだ主題
15	15	模擬授業の評価とまとめ

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校(高等学校)学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物

【推薦書】 押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	生徒指導		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

学校教育の2大機能が「生徒(生活)指導」と「学習指導」です。この二つの機能は、複雑にからみあっており、きれいに分けることが出来ません。時代によって、領域と考える立場が強くなり、特別活動として取り組まれることもありました。今日では、一つの働きとしてとらえる立場が中心となっています。教員として学級や学年、学校を運営していく際に、どのように生徒集団を指導していけばよいのか、実際的な事例を通して考えます。教育の基礎理論に関する科目に引き続き、「教育相談」「特別活動」等、教育実習に行く前の学修として位置付けます。

学級担任として、あるいは教科担任として学級としての生徒に対してどのように接していくことが必要なのかについて学ぶこととなります。いじめや非行対策などの消極的な生徒(生活)指導ではなく、生徒集団が自分たちにとって必要なルールの下、一致団結してひとりでは決してなしえない活動を創造するにはどうしたらよいのか、ということ(積極的な生徒指導)について、実際事例を通して学びます。

a. 生徒ひとりひとりが自己肯定感を持ち、生きる力を身につけていくために必要となる集団指導のあり方について学ぶ、b. 学習指導との連携により、集団で学ぶ喜びを味わわせるための指導のあり方を学ぶ、c. 生徒の問題行動などに接した際の適切な対処について学ぶ。

内容

ここにあげるテーマは、順不同です。また、第1回目の講義において改めて説明します。

1．生徒指導の歴史的展開

生徒指導とは何か。大正期新教育運動における「生活」の発見

教科外活動の成立と生徒指導

教科教育と生徒指導

2．生徒指導の今日的課題

いじめ問題にどう対応するか

問題行動と生徒指導

組織間連携の課題

3．生徒の心を育む生徒指導

集団活動の組織

リーダーを育てている

集団による意思決定と団結

4．これからの時代における生徒指導

子どもの人権を守る

学校内外の組織的連携

心を育てる学級、学年、学校運営

評価

平常点として講義中に書いてもらうミニテスト（3割）に加え、試験又は単位レポート（7割）を総合して、成績をつけます。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト、推薦書は、教室で紹介します。

科目名	教育相談		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【科目の性格】

教職に関する科目の中の「生徒指導・教育相談及び進路相談等に関する科目」に対応する。

【科目の概要】

教育相談の理論や技法等について基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例を交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

また、学校現場において、児童生徒から相談を受けた際に見につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

【学修目的】

教育相談の意義や理論、知識や技法等を中心にその教育実践についても学ぶ。

内容

- 1 教育相談とは何か
- 2 児童生徒の心理と発達課題に関する問題
- 3 児童期・思春期・青年期的人格形成と適応
- 4 教育相談・カウンセリングの基礎知識
- 5 児童生徒の行動の理解と対応 不登校
- 6 児童生徒の行動の理解と対応 不登校
- 7 児童生徒の行動の理解と対応 学業不振
- 8 児童生徒の行動の理解と対応 発達障害
- 9 児童生徒の行動の理解と対応 いじめ 非行
- 10 教育相談の実際（事例から学ぶ）校内連携
- 11 教育相談の実際（事例から学ぶ）家庭・地域との連携
- 12 教育相談の実際（事例から学ぶ）事件事故・災害時の緊急対応
- 13 教員のストレス
- 14 教員のストレスマネジメント
- 15 まとめ

評価

授業中の提出物 30% 試験70%に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用しません。

科目名	教育実践論		
担当教員名	岩井 雄一、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

位置づけ

本科目は教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教科又は教職に関する科目」（4単位中の2単位）に対応する。集中講義による事前・事後指導と、7日間の現場実習により構成する。

内容

1. 集中講義による事前指導（4時限相当）
 - （1） 統合教育の理念
 - （2） 社会福祉の歴史と施設種類
 - （3） 特殊教育の歴史と学校の種類・特性
 - （4） 介護の基本手技
2. 現場実習
 - （1） 社会福祉施設における実習（5日間）
 - （2） 特殊教育学校における実習（2日間）
3. 事後指導（2時限相当）
 - （1） 実習を振り返って
 - （2） 体験報告書の作成について

評価

実習校・実習施設からの評価を100点満点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは指定しない。

都道府県の社会福祉協議会や教育委員会の指導冊子を配布し、これに基づき指導する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：中学校英語二種免許状を取得するために必修の科目です。

科目の概要：中学校で英語を教える際の具体的な指導法に関して、「英語科教育法I」で学んだ基礎知識をもとに、1時間の授業の流れを実践的に学びます。

学修目標： この講座では、1時間の授業全体を通して肉付けをしながら、指導案をもとに効果的な授業展開ができるようにすることを目標とします。

内容

「英語科教育法I」に引き続き模擬授業をすすめながら、日本英語教育史、教科書分析、指導案作成の指導を行います。日本英語教育史では、日本の英語教育の歴史を概観して、さまざまな教授法に触れることにより、現在中学校で行われている英語教授法を具体的な方法論の形で把握します。また、随時英語実力テストを行ったり、基礎英文法の復習などを通して、学生の英語力の向上を図ります。

第 1 週 総合活動（その1）

第 2 週 総合活動（その2）

第 3 週 総合活動（その3）

第 4 週 早期英語教育（その1）

第 5 週 早期英語教育（その2）

第 6 週 評価（その1）

第 7 週 評価（その2）

第 8 週 言語とその指導（その1）

第 9 週 言語とその指導（その2）

第 10週 英語教授法と英語教師（その1）

第 11週 英語教授法と英語教師（その2）

第 12週 教授メディア（その1）

第 13週 教授メディア（その2）

第 14週 教授メディア（その3）

第 15週 まとめ

評価

課題50点、模擬授業50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

米山朝二『英語教育・・・実践から理論へ』松柏社

科目名	教職実践演習（中学校）		
担当教員名	狩野 浩二、岩井 雄一、高橋 京子、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職課程の総仕上げとして行われる授業です。学生のみなさんが教職に関する科目、教科に関する科目、教育実習、その他で学んだ学修内容を統合して、それぞれが教員として最小限必要となる資質や能力を身につけたかどうかを確認し、不足しているところがあれば、それを補う勉強をします。

履修カルテに基づいて、学生のみなさんと個人面談を行います。その上で、どのような資質や能力が形成されてきたか、不足している資質や能力はどのようなものかを確認し、その不足した資質や能力を補うような勉強を行います。内容によっては、講義や講演を聴いたり、近隣の学校での研究会に参加したり、模擬授業や教材研究を行うこともあります。学生のみなさんひとりひとりに対応した演習を実施します。

教員として最小限必要となる資質や能力を身につけることが目標です。

内容

履修カルテの内容と、個人面談の結果をふまえて演習を行います。

順不同ですが、主な内容は以下の通りです。

第1回：オリエンテーション，これまでの教職課程の振り返る（講義，全体討議）

第2回：教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する

（教職勤務経験者による講義）

第3回：教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）

第4回：教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）

第5回：自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）

第6回：生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習，事例研究）

第7回：現在の生徒像からみた望ましい学級経営案の検討

（グループ討議・イベント企画）

第8回：生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解

（グループ調査演習・ロールプレイ）

第9回：学級経営案を発表する（プレゼンテーション，レポート）

第10回：教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義，グループ討議）

第11回：教育内容の基本的事項の確認（個人演習）

第12回：教育方法の基本的事項の確認（個人演習）

第13回：模擬授業

第14回：模擬授業

第15回：まとめ（レポート）

評価

演習・実習への参加態度（4割）、教職履修カルテ（4割）、講義時間中のミニレポート（2割）を総合的に評価して、

60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教室で紹介します。

科目名	教育学概論		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1 科目の性格

本科目は、教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育の基礎理論に関する科目」（4単位中の2単位）に対応するものである。（教職必修科目）

2 科目の概要

本科目の概要は、(1) 教育の理念ならびに教育に関する歴史・思想について学ぶ、(2) 教育に関する制度、社会との関わり、学校経営の基本について学ぶことにある。

3 学修評価

本科目の学修目標は、以下の2点である。 教育の歴史的な展開と教育に関する様々な知識を理解し習得する。 教育について多角的視点から根源的に考えることのできるようになる。

内容

- 第1回： 教育の概念をめぐって
- 第2回： 社会生活と教育
- 第3回： 古代・中世の教育と近代学校の成立
- 第4回： 「子ども」を中心にとらえる教育観の成立
- 第5回： 20世紀の代表的教育思想
- 第6回： 日本の学校制度と教育体系の整備
- 第7回： 教育の社会的基盤
- 第8回： 現代日本の教育課題
- 第9回： 子どもと社会環境・特別支援教育
- 第10回： 「学ぶ力・考える力」 能動的な学習者を育てる
- 第11回： 教育評価の意義と方法
- 第12回： 学校経営と学校評価
- 第13回： 学級経営の基本
- 第14回： 教育行財政の基本 生涯学習時代の「教育と学習」
- 第15回： まとめ

評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。その比率は、小テスト50%：筆記試験50%で、合計60%以上の得点の場合を単位認定する。及第点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】桑原敏明・佐藤三郎 編著『学校教育の基盤 - 教育の本質と社会の中の学校』協同出版

その他は、初回授業時に指示する。

科目名	学校制度論		
担当教員名	黒瀬 任通、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、教員免許を取得するためには欠かせない「必修科目」になっている。「教職に関する科目」の中の一つである。

科目の概要

基本的な学校関係法規について扱う中で、わが国の学校教育についての理解を深めるとともに、近年の教育改革の動向についても考察していく。

学修目標

- 1 授業ごとに、ノートにまとめたり、考えを記述したりする。
- 2 「教育の基礎理論に関する科目」として、学校教育に関する基本的な法と制度を理解する。

内容

1	教育の目的及び理念等に関する事項、及び法規
2	教育の実施に関わる基本的なこと等に関する事項、及び法規
3	学校の種類・設置等に関する事項、及び法規
4	教育行政機関の仕組み等に関する事項、及び法規
5	学校教育の目的・目標等に関する事項、及び法規
6	学習指導要領等に関する事項、及び法規
7	教育課程の編成等に関する事項、及び法規
8	教科書（教科用図書）等の教材に関する事項、及び法規
9	教職員の組織・職務等に関する事項、及び法規
10	教職員の人事・服務等の特例に関する事項、及び法規
11	就学・入学等に関する事項、及び法規
12	学級編制に関する事項、及び法規
13	保健・安全・給食等に関する事項、及び法規
14	学校運営等に関する事項、及び法規
15	まとめ

評価

授業への取り組み（小まとめ・小テスト等）60点、課題レポートなどの提出物40点、などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『必携 小六法』 杉原 誠四郎 監修 共同出版

『解説 教育六法』解説教育六法編集委員会 三省堂

『教育法規便覧』 窪田真二・小川友次 編 学陽書房

科目名	教育課程論		
担当教員名	狩野 浩二、増田 吉史、草野 一紀		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

教員を目指すみなさんが2年生後期に受講し、各教科（国語・算数など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「教職科目」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1. 教育課程とは何か。
2. 近代日本における教育課程のあゆみ
3. 現代日本における教育課程のあゆみ
4. 教育課程開発の新しい動向
5. 教育課程の思想と構造
6. 社会における教育課程
7. 教育課程をどう編成するか 教育課程編成における構成要件
8. 教育課程をどう編成するか 編成論の変遷
9. 教育課程をどう編成するか 編成の基本原則
10. 教育課程をどう編成するか 展望
11. 今日的課題への挑戦 いのち、生きることへの教育
12. 今日的課題への挑戦 市民性教育
13. 今日的課題への挑戦 環境教育
14. 今日的課題への挑戦 メディア・リテラシー教育
15. まとめ

評価

学習票（20点）と課題研究（80点）を総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】田中耕治，水原克敏，三石初雄，西岡加名恵 / 著 『新しい時代の教育課程 第3版』有斐閣

【推薦書】斎藤喜博 『授業の展開（新装判）』 国土社

横須賀薫 『授業の深さをはかるもの』 教育出版

箱石泰和編 『授業 = 子どもとともに探求する旅』 教育出版

【参考図書】横須賀薫編 『授業研究用語辞典』 教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	教育実習		
担当教員名	岩井 雄一、高橋 京子、星野 祐子、坂口 智		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 1、教職関連科目、教科教育法、教育実習 で習得してきた内容を踏まえて、教育実習 では、実際に学校現場で授業を担当する。これまでに修得してきた、教授、学習、教育方法等に関する知識を実践的な知識に変換し、教員を目指すものとしての実践的能力を身につける。
- 2、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

内容

教育実習協力校における3週間以上の授業の担当（中学校国語科）による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価を100点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。参考書等は授業時に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	岩井 雄一、高橋 京子、廣坂 多美子、星野 祐子 他		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教科教育法や教職関連科目等によって習得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うに当たって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

なお、本科目は、教育職員免許法に定める「教育実習」の内の1単位に相当する。

内容

- 1、事前指導（8時限相当の時間を配当する）
 - （1）教育実習オリエンテーション
 - （2）実習時における勤務、サービスの心得
 - （3）実習記録の作成法
 - （4）授業の構成と指導案の作成
 - （5）実習校の訪問
- 2、中間指導（4時限相当の時間を配当する）
 - （1）実習時における課題の把握
 - （2）実習日誌の中間提出
 - （3）研究授業及び実習についての指導
- 3、事後指導（3時限相当の時間を配当する）
 - （1）教育実習の総括的反省と今後の課題
 - （2）実習校の訪問

評価

実習校からの評価を参考に100点満点で評定する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	岩井 雄一、高橋 京子、星野 祐子、坂口 智		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 1、教職関連科目、教科教育法、教育実習 で習得してきた内容を踏まえて、教育実習 では、実際に学校現場で授業を担当する。これまでに修得してきた、教授、学習、教育方法等に関する知識を実践的な知識に変換し、教員を目指すものとしての実践的能力を身につける。
- 2、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

内容

教育実習協力校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価を100点に換算して評定する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。参考書等は授業時に指示する。